

# 本から学んだ 人生論

LEARNED FROM THE BOOK - THEORY OF LIFE

佐藤秀雄 スタイリッシュグループ代表

## ケネディからの伝言

### 人前で話すことは、ひとつの大きなチャンス！



1994年10月15日  
私は日本一周の旅を終え、今度はアメリカを旅していた。気ままな一人旅。目的は二つ。映画の中でしか知らないアメリカを肌で感じること。そして、もう一つはアーリントンに眠るケネディ兄弟のお墓参りをする事だった……。

第35代アメリカ合衆国大統領 ジョン・F・ケネディ。そして弟で司法長官を務めたロバート・ケネディ。当時の私はこの二人に夢中になっていた。彼らに関する書物は片っ端から読破した。既に亡くなって30年以上がたっているのに、その軌跡は私の心を驚かみかみかしていた……。

1968年4月4日 インディアナポリス  
暗殺された兄の意思を継ぎ、大統領選に出馬したロバート・ケネディ(ポビー)は、演説会場に向かっていた。その時、最悪なニュースが入ってくる。黒人運動の指導者マーティン・ルーサー・キング牧師が暗殺されたというのだ。いくつかの都市ではすでに黒人暴動が起きていた。

演説会場は黒人街のど真ん中。警察からの中止要請。状況が状況だけに誰もが中止を意図していた。会場入りしたポビーに対し警察署長は「あなたを狙ったスナイパーをビルの上で捕え



ロバート・ケネディ

た。ここで演説するのは、殺してくれと言っているようなものだ。」と制止した。ポビーは「命というものは意味がある時に使って、初めて価値がある。私は行く。」とソツとさせる迫力で制止を振り切った……。

ポビーが壇上に立つ。不気味なほどの静けさの中マイクを握りしめる。そして、何かノドにつまった、しほりだすような声で語った……。

「愛と平和の使者キング牧師が死んだ。この中には白人に対する憎しみと復讐心に燃えている者もいるかもしれない。しかし、耐えて欲しい。私の兄も殺された……白人に殺されたのだ……私は耐えた……。」

それまでの5年間ポビーは兄の死について公衆の前で語ったことは一度もない。胸をえぐられる言葉だった。うるんだ目で彼がつづける……。

「この国に必要なのは分裂や憎しみではない。今この国に必要なのは暴力でも無法でもない。必要なのは愛であり英知であり、互いにいつくしみ合う慈悲の心だ。そして黒人、白人を問わずいまだこの国で苦しんでいる人々への正義に感情を持つことなのだ……。だからあなたの方にお願います。今夜はこのまま家へ帰って欲しい。そしてキング牧師の家族と彼の魂のために祈りを捧げて欲しい。同時に愛する祖国アメリカのために祈って欲しい……。」

「あちこちから嗚咽が聞こえてくる。皆、涙ながらに身体を震わせていた……。

やがて、群衆が静かに散り始めた。

その夜、キング牧師の暗殺に怒り狂った黒人たちが、アメリカ中で暴動を起こし略奪と破壊の限りをつくした。しかし、インディアナポリスだけは平穏だった。ポビーが体を張って語りかけたからだ……。

どうだろう。この話を凄くと思わないだろうか？当時の状況からすれば、殺されてもおかしくない状況でポビーは語った。命がけて語ったのだ。一人の人間の命がけの言葉で、たくさんの人たちが救われたのだ。(実際にこの2ヶ月後、42歳の若さでポビーは暗殺されてしまったのだが……。)

懐かしく微笑ましいエピソードだ。

「人前で話すことは、ひとつの大きなチャンス！」

私の「1000の夢リスト」に、自分のスピーチを聞いたたくさんの人たちが、感動の涙を流し、スタンディングオベーションで大拍手をする！というものがある。

近年、私も仕事から、大勢の人たちの前で話す機会が多くなってきた。年に数回は東京や大阪で講演することもある。しかし、まだまだほど遠い実力である。

いつかいつかケネディのような演説が出来たらな……。(笑)

佐藤秀雄(さとう・ひでお)  
スタイリッシュグループ代表

株式会社スタイリッシュハウス 代表取締役  
株式会社総合設備 代表取締役  
株式会社夢家プロジェクト 代表取締役  
NPO法人 スタイリッシュライフ 代表理事  
スタイリッシュハウスHP  
http://www.stylish-house.com  
(佐藤秀雄のブログも掲載)

1967年生まれ。足利市出身。建築設備工事会社。人材派遣会社勤務を経て、28歳で起業。設備工事からスタートし、リフォーム、新築住宅販売へと会社を飛躍的に成長させる。2009年より「夢家プロジェクト」を開始。大手コンサル会社とタイアップし「高品質で低価格な住宅」を提供するプロジェクトをプロデュース。全国63社の建築会社を組織化している。2011年9月に著書「ゼロからはじめる家づくり(あさ出版)」を出版。2012年には世界的コンサルタントの大前研一氏が創立した「一新塾」を卒業。卒業発表では、地域活性化の企画をプレゼンし、「主体的市民賞」と「最優秀理事長賞」をダブルで受賞。2012年12月介護事業に進出。テイクサービス「スタイリッシュライフ」を立ち上げる。会社理念は「愛してる。」お客様を愛し、仲間を愛し、地域を愛し、仕事を愛しています。



ロバート・ケネディのお墓



ジョン・F・ケネディ

本や録画映像でしか知らない二人のケネディ。話し方は、説得力があり自信に満ち溢れていた。どうでもよいようなことは省き、もったいぶった言いまわしもせず、ウィットと高度な弁舌で人々を魅了した。ケネディの演説での聴衆の反応はすさまじい。拍手と歓声がいつまでも鳴りやまないのだ。

私はその数々の演説から、言葉の重さや生きる勇氣、希望を学んだように思う。時に、たった一言の失言で政治家は職を失う。私たちの生活の中でも、たった一言で人間関係を壊すこともある。しかし、反対にその言葉によって人を励ましたり、友情や愛が芽生えたりすることもある。言葉はナイフと同じ、美味しい料理も作れば、人の命を奪うことさえある。

……私は中学生の時に、演説で大失敗したことがある。友人が生徒会長に立候補した時に応援演説を頼まれた時のことだ。当時の私は、人前で話すのが好きだった。いつも、大勢の前で下らない冗談ばかり言っていた。応援演説を頼まれても、どうやって会場を笑わせ、友人を当選させようか。そんなことばかり考えていた。しかし、全校生徒数百人の前に立ったとき、かつて経験の無い緊張に見舞われてしまったのだ。壇上上がるのも、右手右足が一緒に動いてしまう。「みなさん！こつちをみなさん！」冒頭に仕込んでいたギャグも、上ずった声でスベリまくった。頭の中は真っ白。後は用意した原稿をひたすら棒読みし、この瞬間が早く過ぎ去ることを願った……。

結果、友人は落選。私にとってこの経験は、強烈なトラウマとなってしまったのだ……。その後、数日前から極度の緊張に見舞われてしまった。勤めていた会社では、月に一度の業績発表で、いつも冷や汗をかいていた。時に、東京支店にたった一人しかない営業マンとして、愛知県にある本社に報告にいかななくてはならない。移動の新幹線の中は、もう死地に向かう囚人のようで、居並ぶ社長や役員たちの顔を思い浮かべては、何度も途中下車の衝動にかられた。我ながら分析すると、完璧主義で自意識が過剰過ぎた(汗)

このままではいけない！私は何とかこの状態を抜け出そうと、「話し方教室」に通うことにした。毎週一回、クラスメイト30人位の前で3分間スピーチをした。そこで、恥をかき繰り返して練習することで、人並みくらいにはしゃべれるようになってきたし、いつしか周りからは「上手い！」と称賛されるようになっていた……。今では、



# 私はその数々の演説から、言葉の重さや生きる勇氣、希望を学んだ！

EPISODE

# 05

LEARNED FROM THE BOOK - THEORY OF LIFE

written by Hideo Sato